

野球はベースボールになり得るか～日本の国民性が野球に与えた影響～

The influence on the baseball world brought by Japanese nationality

1K05B109

指導教員

主査 宮内孝知先生

佐野 千尋

副査 石井昌幸先生

今日の世界経済・政治は静養の国々を中心に発展し、日本はそれに追いつくべく個々まで成長してきたが、それはスポーツにおいても言えることである。

日本の国民的スポーツともいえる野球は、WBCで日本代表チームが初代チャンピオンに輝くなど世界に通用するレベルとなった。しかしこのような高いレベルにありながらも、日本野球のトップ選手たちはアメリカメジャーリーグでプレーすることを希望し、アメリカに流出している。

これは、レベルの違いはもちろん、他にもアメリカベースボールと日本野球との間で違いがあるからではないか。

私はこの違いの間に、ベースボールが輸入されてから野球として発展するまでに、日本の国民性が影響しているという仮説を立てた。

そこで日本の国民性を踏まえた上で日本野球とベースボールとの違いを検証し、そこに国民性がどのように影響しているかを考察する。第1章では、日本に伝わったベースボールが、アメリカではどのように発展してきたか、またどのような性質があるのかを考察する。

アマチュア野球から発展したプロリーグの球団のほとんどが個人のオーナーによって経営され、巨大な全国的なビジネスとして発展してきた。そのためNFLなど他のプロスポーツの人気も高まる中でファン獲得のために球団はさまざまなアイデアを出して収益を上げ、選手たちは勝って給料を稼ぐために自身で自己管理やトレーニングを行い、またさまざまな権利や保証を得るために選手会を発足し球団側と戦った。

このようにアメリカメジャーリーグには、ビジネスとして発展してきた経緯と、自己の権利や勝利などは自分の手で獲得するという個人主義的なアメリカ人の性質がうかがえる。

そして、日本に輸入されたベースボールが野球として発展する経緯とそこにどのように国民性が影響したかを考察する上で、日本の国民性を理解する必要がある。

アメリカ人の客観的な視点から日本の国民性について研究した著書を参考に日本人の国民性について考察する。日本人は戦時中の行動や武士道という言葉にもあるとおり、物質より精神力を重んじる習慣がある。

またかつての封建制度の影響は現代においてもさまざまな場面で根強く残っており、それによって自分の立場にふさわしい行動をとろうとする傾向や、その集団から突出し恥をかくような自体を恐れ集団の和を重要視し、自分の立場よりも植えである人間への忠誠心が大きいなどの特徴がある。

これらの日本人の国民性を踏まえて、アメリカのベースボールと日本野球とを比較しながら、そこにどのような国民性の影響がうかがえるかを考察する。

日本社会に根差している封建制は野球界にも見られ、絶対的なオーナーや監督の命令に従う選手たちと、選手会の立場の弱さなどはそれを表しており、この日本野球の特徴と国民性から、「管理野球」という言葉が生まれた。

また恥を恐れる性質は野球のルールやデータにも表れており、アメリカベースボールにはない引

き分けというルールが日本野球にはあり、フルカウントになることが多くゲームの中で大胆な作戦や戦術が少ないという特徴がある。

そして野球が行われるようになった頃の日本の、精神は肉体や物質にも勝るという考えから、アメリカ人王れーやーからは理解できないような非合理的とも言える行きすぎた練習が行われていた。

以上の点から、アメリカとはちがう日本独自の国民性が、ベースボールとは違う日本野球をつく

りあげたということができる。

本場アメリカのベースボールに追いつくべく発展してきた日本野球だが、その日本の国民性は、日本でプレーしたあるアメリカ人選手の言葉にもあるように、ベースボールとは違う日本野球というスポーツをつくったのである。

それは日本の文化そのものであり、その文化がアメリカを超えることも、アメリカと同一になることもないだろう。